

# 学校図書館分野の機関誌・論文誌記事 にみる読書に関する主題

今 村 成 夫

## 要旨

既報において、学校図書館関連団体である全国学校図書館協議会の機関誌「学校図書館」や論文誌に掲載された特集記事の特集題目を対象に、創刊号から2018年8月までの50年あまりの期間について内容分析をおこない、学校図書館分野のトピック（主題）がどのように変遷してきたか把握を試みた。読書に関する記事がそれらの4割近くを占めていることが実際に確認できたが、それら「読書」に関する記事の更なる主題範囲はどのようなものなのか。本報告では、同団体ほか3つの団体の機関誌・論文誌に見られる「読書」に関する主題の範囲の把握を試みた。その結果、読書指導の方法や実践報告に関する記事が、全ての期間を通じて8割にもなることが実際に確認できた。

## 1. はじめに

既報<sup>1) 2)</sup>では、この分野では最も歴史の古い、全国学校図書館協議会の機関誌「学校図書館」の1950年9月号(1号)から2018年8月号(814号)までを対象に、各号の特集題目と関連する各記事を査読確認し、特集の主題を分析した。(表1.1および1.2.) その結果、記事全体数に占める「読書」に関する記事数は、創刊された1950年9月から2006年8月までの期間では、およそ20%程度、2006年9月以降、2018年8月までの期間では、お

よそ 38%を閉めていることが把握できた。

学校図書館に関する資料上では、その機能を、

1. 読書センター
2. 学習センター
3. 情報センター

の三機能として取り上げ、論じている例が多く見られ、読書は、学校図書館分野における重要なテーマであることから、記事数も総体的に多く発表されているものと理解できる。しかし、「読書」が主題となる記事であっても、その内容はさらに、さまざまな要素に分けることができると考えられる。

たとえば、

- 1) 学校内および学校図書館における児童・生徒への読書指導の方法に関するもの  
方法論・方法の検討、運営・運用体制、実践報告など。さらに、その成果のリアクションや読書指導の一環としての読書感想文（コンクールを含む）や読書感想画、読書ウォーク、ビブリオバトルなどの読書活動に関する実践報告や論考など。
- 2) 上記の1)などの実施状況や成果の状況についての調査結果の報告。（統計的手法を用いて結果をまとめたもの）  
読書世論調査などの報告やそれらに対する検討・検証の結果、読書活動の実態調査など
- 3) 読書指導や読書活動の場となる学校図書館などの環境や背景的事象  
予算問題や蔵書構築と蔵書構成、監督官庁からの予算措置や指導、法律・法令・省令などの制定や改正等、学校図書館の施設・設備・備品・人事・研修教育体制、計画過程など。

近年、企業ばかりでなく、官庁や自治体、大学、学校等においても、いわゆるマネジメントサイクル（経営サイクル）の概念、すなわち、マネジメントサイクルと PDCA（plan（計画）・do（実行）・check（評価）・act（改善））の概念が導入され、運営・運用がおこなわれるようになってきている。学校図書館の現場も例外では無い。たとえば、文部科学省のサイト「学校図書館

表 1. 1. 年代別の特集題目件数（1951 年 1 月～2006 年 8 月）<sup>2)</sup>

主題カテゴリ	期間 件数（件）	1951.5 -1961.1	1961.2 -1971.1	1971.2 -1981.1	1981.2 -1991.1	1991.2 -2001.1	2001.2 -2006.8
『学校図書館』号		8号～ 123号	124号～ 243号	244号～ 363号	364号～ 483号	484号～ 603号	604号～ 670号
学校図書館の運営・活動		23（件）	16	22	26	17	6
学校図書館運営スタッフ		5	4	2	5	10	5
図書館資料の整理と組織化		13	20	10	9	8	3
学習指導・利用指導		11	11	13	15	9	5
読書指導		21	31	19	16	24	20
児童図書と出版事情		9	15	18	12	2	2
学校図書館行政と法律・法令		7	3	7	5	15	7
回顧と展望（大会報告）		15	3	8	11	10	4
その他		5	16	18	26	20	9

表 1. 2. 年代別の特集題目件数（1986 年 9 月～2018 年 8 月）<sup>1)</sup>

分類項目	記事数（件）	百分率（%）
1 学校図書館の管理・運営・活動全般	135	13.7
2 学校図書館運営スタッフ（司書教諭、学校司書、 図書館委員（教職員および児童・生徒）	90	9.2
3 図書館資料の収集・選択・整理・組織化・装備	30	3.1
4 図書館活用・資料活用・情報活用・学習指導・利用指導	241	25.0
5 読書指導	382	38.0
6 児童図書と出版事情	9	0.9
7 学校図書館行政と法律・法令	16	1.6
8 研究動向・学会消息・機関消息	47	4.8
9 情報サービス・利用支援	24	2.4
10 図書館施設・設備・備品	10	1.0
11 その他	3	0.30
	987	

の整備充実について（通知）」が掲載されており、その中では、以下のような記述が見られる。

### 3 学校における取組

（1）学校においては、校長のリーダーシップの下、学校図書館の適切

な運営や利活用など学校図書館の充実に向けた取組を推進することが重要であること。

特に、学習指導要領等を踏まえ、学校図書館の機能を計画的に利用し、児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実することが重要であること。

- (2) 学校図書館を利活用した授業に関する校内研修を計画的に実施することが重要であること。その際、研修内容や研修方法の工夫を図ることが有効であること。
- (3) 学校図書館の運営の改善のため、PDCA サイクルの中で、読書活動など児童生徒の状況等を含め、学校図書館の評価を学校評価の一環として組織的に行い、評価結果に基づき、運営の改善を図ることが重要であること。(文字につけた下線は、本稿において付与)

このように PDCA サイクルなどの概念が導入されつつある近年では、上述の「読書」に関わる複数の要素それぞれに関する報告等が、記事中に一定の比率（理念的には、1：1：1 の比率）で掲載されていることが予想される。しかし、こうした記事が掲載されている雑誌上では、専ら実践報告や読書指導の内容に関する記述が多いように見受けられる。しかもこうした状況についておこなわれた調査は見当たらない。

本稿では、以上のような状況から、学校図書館にかかわる団体が発行している、いくつかの会報、論文誌等に掲載された記事のより下位の主題とその比率の実情について調べた。

## 2. 学校図書館に関わる団体の 機関誌・論文誌に等に対する調査

本調査の対象として選定した機関誌や論文誌および図書は、下記のとおりとした。

- ① 「学校図書館」（社団法人全国学校図書館協議会の機関誌）
- ② 「今日の学校図書館」（国学校図書館研究大会 運営委員会）
- ③ 「学校図書館学」（日本学校図書館学会 学会誌）

これらを選定した理由は、学校図書館の運営を主な対象とした団体の機関誌や論文誌、図書で、とりわけ「学校図書館」と「今日の学校図書館」は、発行期間が50年以上にわたっている代表的な資料であるためである。

記事の選定には、日外アソシエーツ株式会社の書誌データベースである「BOOK PLUS」を利用した。同データベースを利用した理由は、①網羅性が高いこと、②それぞれの記事に対して書誌的事項のみならず解題が付与されており、主題の把握がしやすいこと、が主な理由である。

検索にあたっては、資料名フィールドへ“学校図書館”と入力、さらに件名フィールドへ“読書”と入力した。期間は、1951年以降現在（2019年8月）までのすべての期間を対象に検索をおこなった。検索結果をリストアップし、それぞれのタイトルから主題を把握し、前節にも記した以下の4つの項目にレコードをごとに区分した。なお、タイトルから主題の把握が難しい場合には、同データベースの各レコードにつけられている解題を参照した。なおも主題把握が困難なものについては、図書館等で現物の閲覧確認もおこなった。

表2.1. 記事の分類項目

- |   |
|---|
| <p>(1) 学校内および学校図書館における児童・生徒への読書指導の方法に関するもの<br/>方法論・方法の検討、運営・運用体制、実践報告など。さらに、その成果のリアクションや読書指導の一環としての読書感想文（コンクールを含む）や読書感想画、読書ウォーク、ビブリオバトルなどの読書活動に関する実践報告や論考など。</p> <p>(2) 上記の1)などの読書活動実施状況や成果の状況についての調査結果の報告。（統計的手法を用いて結果をまとめたもの）および、読書世論調査などの報告やそれらに対する検討・検証の結果、読書活動の実態調査など</p> <p>(3) 読書指導や読書活動の場となる学校図書館などの環境や背景的事象<br/>予算問題や蔵書構築と蔵書構成、監督官庁からの予算措置や指導、法律・法令・省令などの制定や改正等、学校図書館の施設・設備・備品・人事・研修教育体制、計画過程など。</p> |
|---|

### 3. 機関誌・論文誌等にみられる「読書」記事の主題範囲

検索された記事数は、1890 件であった。各記事の分類結果の例を表 3. 1. から表 3. 4 に示した。

分類 (1) に帰属した記事は、主に学校での読書指導の実践例、読書感想などのリアクションに関する記事が多くみられた。また、分類 (2) では、学校や児童・生徒を対象におこなわれた調査の報告記事が多かった。分類 (3) では、法令の制定に関する記事や学校図書館の蔵書構成、収集計画や方針、予算について記された記事がみられた。

表 3. 1. 学校内および学校図書館における児童・生徒への読書指導の方法に関するもの

(例：書式は一部修正を加えた)

- ・「夏季休業中の学校図書館」(特集 夏休みだからできる読書活動) 北田 明美 学校図書館 2007
- ・「七栄っ子サマースクール開校」(特集 夏休みだからできる読書活動) 國本 與一 学校図書館 / 2007
- ・「読書感想文からブックトークへ―個別指導を大切に―した夏休みの読書指導」(特集 夏休みだからできる読書活動) 後藤 准子 学校図書館 2007
- ・「夏休み『読書感想文の書き方講座』を生かして」(特集 夏休みだからできる読書活動) / 須見 恵子 学校図書館 2007
- ・「合同読書会で活気づく学校図書館」(特集 夏休みだからできる読書活動) 長尾 幸子 学校図書館 2007
- ・「課題読書で"考える読書"を目ざす―静岡県立浜松北高等学校」(特集 読みを深める読書感想文指導) 加藤 安英 学校図書館 2007

表 3. 2. 実施状況や成果の状況についての調査結果の報告等(例：書式は一部修正を加えた)

- ・「携帯電話とケータイ小説」(特集 '08 子どもの読書と学校図書館の現状 -第 54 回学校読書調査報告) 学校図書館 2008
- ・「教師・家族からの読書のすすめ」(特集 '08 子どもの読書と学校図書館の現状 -第 54 回学校読書調査報告) 学校図書館 2008
- ・「読んだ本の量 / 読んだ本の内容」(特集 '08 子どもの読書と学校図書館の現状 -第 54 回学校読書調査報告) 学校図書館 2008
- ・「読んだ雑誌の量 / 読んだ雑誌の内容」(特集 '08 子どもの読書と学校図書館の現状 -第 54 回学校読書調査報告) 学校図書館 2008
- ・「図書の購入と選定」(特集 '07 子どもの読書と学校図書館の現状 -2007 年度学校図書館調査報告) 学校図書館 2007
- ・「学校図書館の経費」(特集 '07 子どもの読書と学校図書館の現状 -2007 年度学校図書館調査報告) 学校図書館 2007

表 3. 3. 読書指導や読書活動の場となる学校図書館などの環境や背景的事象

(例：書式は一部修正を加えた)

・「特集 読書バリアフリー法が成立」 学校図書館 2019
・「地域の要求を結集し、法の実体化を！ ―「子どもの読書活動推進法」と学校図書館」笠原 良郎 学校図書館 2002
・「子どもの読書活動の推進に関する法律の制定」 河村 建夫 学校図書館 2002
・「『子どもの読書活動の推進に関する法律』と文部科学省の施策について」 関 靖直 学校図書館 2002
・「21 世紀を拓く子どもの読書活動推進法一本を読む国・日本へ」 肥田 美代子 学校図書館 / 2002

分類した結果を、表 3. 4. に示した。1. の読書指導とその成果(リアクション)について記述した記事が大半を占めており、次いで実態調査等についての記事、背景的な学校図書館運営に関わる記事の順となった。

表 3. 4. 記事の類別例

区 分	記事数 (件)	百分率 (%)
1. 読書指導とリアクション	1591	84
2. 読書にかかわる実態実情調査等	266	14
3. 読書にかかわる学校図書館施設・設備・資料等の整備・法整備・通達など	38	2

分類結果をさらに、1951 年以降の 10 年ごと (1951-1960、1961-1970、1971-1980、1981-1990、1991-2000、2001-2010、2011-2019) に分割した表を下表 3. 5. に示した。

期間	区分 1 (件)	区分 2 (件)	区分 3 (件)
1951-1960	164	3	1
1961-1970	342	6	1
1971-1980	279	12	3
1981-1990	176	13	4
1991-2000	162	55	5
2001-2010	278	89	15
2011-2019	190	88	9

区分1の読書指導とその成果に関する記事は、1960年代、1970年代、2000年代、2010年代の順に多い。区分2の読書にかかわる実態調査の記事は、2000年代以降が最も多く88件ずつ、次いで1990年代の順に多い。逆に1950年代から1960年代は一桁台で少ない記事数であった。区分3の背景となる学校図書館の業務環境についての記事は、2000年代が15件で多く、次いで2010年代の9件。他の期間は一桁台となった。

#### 4. 機関誌・論文誌記事にみる 読書に関する主題の範囲

機関誌や論文誌に見られる「読書」に関する記事のより下位の主題について、タイトルの記述を元にその特徴把握を試みたところ、以下のような点が示された。

- ・調査対象とした機関誌や論文誌における読書に関する記事の割合は、1950年代以降現代までほぼ変わっていない。
- ・機関誌・論文誌全体を通じて、読書指導の方法やその実践例に関する記事が全体の84%にも達していた。
- ・残りは、読書に関する実態調査の報告が14%程度、読書指導等の読書活動の背景に位置する学校図書館の施設や予算、関連法令などに関する記事は、2%程度であった。
- ・1950年代以降の10年ごとの記事数は、読書指導に関する記事の比率は、1950年ごろから1970年代までが最も高く、その後読書の実態調査を始めとする他の記事の比率が相対的にやや高くなった。

序文でも紹介したとおり、既報<sup>1) 2)</sup>の調査では、1950年代から現在まで、いずれの時期にも、全国学校図書館協議会の機関誌「学校図書館」に掲載された記事のうちの、およそ30%程度が読書に関する記事で、すべての記事の中でも読書に関する記事の比率が高い傾向が、ずっと継続している。さらにその読書に関する記事の中でも、読書指導の方法や実践的手法に関する記事の比率が80%以上を占めている。ただし、最近になるほど、読書に関する記



事の中でも実体調査等、読書指導法以外の記事の比率が多少高まりつつある傾向が見られた。これは、学校図書館に対する学校現場や社会の意識や期待、要請の変化、予算など、学校図書館を取り巻く環境の変化が影響を与えているものと思われる。学校図書館関連の書籍や機関のサイトにおいては、多くの場合、学校図書館の機能・役割として、学習センター、情報センター、読書センターが列挙されている。しかし、現在でも読書、なかでも読書指導に関する議論が、これらの機関誌や論文誌の中では中心的であることがわかる。

序文で触れたとおり、経営学分野のマネジメントサイクルの概念が、学校の現場でも導入されつつあるが、上記結果を見る限り、読書に関しては、実行や計画に関する記事は多く見られるものの、評価に関する記事がまだ少なく、少しずつ増えつつある現状であるように見える。数多くの現場の司書教諭、学校司書、教員が試行錯誤を繰り返している段階にあり、多くの実践結果を分析して一般化する状況には至っていないのかも知れない。

なお、読書自体の目的も時代とともに変化してきている。従来は、「読書と豊かな人間性」の科目名にも見られるとおり、人格形成にかかわる読書経験が重視されてきたが、知識基盤社会となりつつある現在、数多くの資料（紙のメディアばかりでなく、従来からの視聴覚メディア、デジタル方式のメディアなど、さまざまなメディア）から必要な情報を迅速に獲得して読み取り、理解・処理する能力の涵養も重要であろう。今回対象とした各記事がどのような「読書」の経験や能力の涵養を企図したものであるのかについては、調べるができなかった。今後さらに調べる必要がある。

## 5. おわりに

既報<sup>1) 2)</sup>の結果にもとづき、さらに機関誌や論文誌の記事に関する主題の分析をおこなったが、それらの各記事の内容に関するより詳しい分析は今回はおこなえなかった。今後さらに、個々の記事に関して、その内容の分析をおこなってみたい。

## 引用文献・参考文献

- 1) 『機関誌の特集題目から見た学校図書館界の主題状況:2006 年 4 月以降の特集題目の分析を通じて』. 大正大学研究紀要 .No.107,2019
- 2) 『機関誌にみる学校図書館界 50 年の動向:特集題目の分析を通じて』. 大正大学研究紀要 .No.92,2007.
- 3) 「学校図書館の整備充実について (通知)」文部科学省 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/dokusho/link/1380597.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380597.htm)(2019 年 11 月現在)
- 4) 『占領下日本の学校図書館改革:アメリカの学校図書館の受容』. 中村百合子 著. 慶應義塾大学出版会 .2009
- 5) 『学校図書館五〇年史』. 学校図書館五〇年史編集委員会編. 全国学校図書館協議会 ,2004
- 6) 『学校図書館五〇年史年表』. 学校図書館五〇年史年表編集委員会編. 全国学校図書館協議会 ,2004
- 7) 『図書館関連団体文書にみる米国における「インフォメーション・リテラシー」の変遷』. 中村 百合子. 日本教育工学雑誌 .26 (2) ,2002.
- 8) 『研究文献レビュー学校図書館における日本国内の研究動向』. 中村 百合子. カレントアウェアネス ,282, 2004.
- 9) 『学校図書館司書教諭養成カリキュラムの現状と課題-- アンケート調査を終えて』(特集〔日本図書館研究会〕第 41 回研究大会) / 柴田 正美; 岩崎 れい; Yukako Kornhauser 他. 図書館界 . 52 (2) (通号 293) 2000.
- 10) 『わが国における学校図書館司書教諭養成の諸問題——平成 11 年度の新カリキュラム移行に関するアンケート調査の結果を中心に』(特集:〔日本図書館研究会〕第 40 回研究大会) 渡辺 信一; 柴田 正美; 岩崎 れい 他, 図書館界 . 51 (2) , (通号 287) 1999.
- 11) 『学習指導・調べ学習と学校図書館』. 大串夏身編著. 志村尚夫; 天童佐津子監修. 青弓社 ,2009 (学校図書館図解演習シリーズ ;3)
- 12) 『全国 SLA〔学校図書館協議会〕創立 40 周年記念特集:学校図書館の 40 年〔含 年表〕』全国学校図書館協議会編. 学校図書館 (通号 482) 1990

- 13) 『学校図書館利用教育に関する実証的研究』. 原勝子 著 . 風間書房 ,2004
- 14) 『学びが広がる学校図書館システムガイド：1（入門・システム編）』 .  
大木実編著 . 日外アソシエーツ .2003
- 15) 『学校教育における図書館と情報教育』 . 金沢みどり著 . 青山社 ,2008